

第4回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日 時 平成27年3月25日(水) 10:30~12:00
場 所 富士見市役所 市長公室
出席者 ○市民懇談会参加者

岩本	川上	新井	前田	世羅	狐塚
○	○	○	○	○	○
山崎	氣賀澤	佐藤	岡田	守山	矢島
欠	欠	○	○	○	○

○事務局

【地域文化振興課】市川課長、中嶋副課長、大下主事

【生涯学習課】友光課長、坂本主査、榎本主事

1 開 会

2 議 事 岩本座長

(1) 資料確認

事務局より配布資料の確認を行った。

(2) 協議事項

・生涯学習推進基本計画の見直しのポイントについて
学識経験者の森本先生に、計画の見直しのポイントについてお話をいただいた。

☆今回の見直しは、計画の中身とこれまでの活動を確認し、深めることである。

1. 「市民参加」方式の計画づくりの意味

市民の方はお客様ではなく、行政と対等な主体である。

2. 第2次計画基本理念を改めてふりかえって

- ・基本理念の1と2は学ぶ意欲を大切にしており、3から4にかけて地域のまちづくりにつながっていく。個人の学習や生きがいにとどまらず、学びをまちづくりにつなげていく事を理念では大切にしたい。
- ・富士見市としての特徴を生かした学習を行う事も重要なポイントとした。

3. 計画の見直しのポイントとは

①市民が学習に能動的に参加しているか

・講座を受けるだけでなく、企画運営に市民が積極的に参加していること、参加しやすい講座の内容になっている事が大切なことである。市民が講座に能動的に関わることができる仕組みを作れば、学びが地域づくりに繋がったり、富士見市らしさがその講座の中に出てくる。

②地域課題を位置づけて学習しているか

民間のカルチャーセンターでは、一般的な教養を学ぶ。公の生涯学習は、地域課題の解決に関わっていく事が大切である。何が課題かを考えることで学びは深まっていく。学習の宝物は足元に転がっている。

③実践を前提とした学習となっているか

生涯学習として学習の機会が保障されている以上、地域へその学びの成果を還元できる仕組みをつくらなければならない。これは計画において最重要ポイントであると考え。実践に参加できることを前提としたカリキュラム化が大切である。

④共同的な学習となっているか

講義は学びにおいて最初の入口であり、最終的には共同的に学び合う場を作らなくてはならない。WSやグループワーク等の学びの場や、講師と生徒の立場を超えて、話せる場を作ることが大切である。生涯学習において、集団で学ぶことはキーポイントである。

⑤以上の4つの点を担い手（職員）がきちんと把握して支援しているか

以上の事を理解し、支える専門的な人が必要である。生涯学習の質はファシリテーター、コーディネーターの質によって変わってくる。こういった担い手は市役所の職員でもいいが、今の時代は市民の中からこういった人が生まれてくるケースも多いと思う。

委員) NPO 法人富士見市民大学に関わっている。いろんな講座を開催しているが、若い人や新規の受講者が増えずマンネリ化しているのが課題である。そういった人を呼び込むにはどうしたらいいのか。

森本先生) 地域の人に関心を持っているものを考えて、それに対して話ができたり、問題を体感し向き合える場を作ることで新たに参加する人も増えるのではないか。

委員) 市民学芸員を28年やっている。活動の中で熱意が伝われば周りの

人も巻き込んだ活動へと発展していくことを実感した。参加する側も企画する側も、熱意がとても大切である。

委員) 花を育てる市民のサークルが町会とタイアップして花をまちなかにたくさん植えた活動の事例から、個人の興味がまちづくりへつながっていく事を実感した。こうした事も生涯学習にはとても大切であると思う。

委員) 森本先生のお話の中で出てきた生涯学習パスポートはとてもいい取組だと思う。市民人材バンクにもこれを活かしたいと思う。

(3) その他

- ・ 中間見直しなので、計画の構成や目標等は変えず、5年間の成果を確認する。
- ・ 見直しの主体は行政で、懇談会の皆様には市民の立場からご意見をいただく。
- ・ 次回会議で見直しの方向を提示する。その際、資料を事務局から提供する。
- ・ 来年度の会議は5～6回開催する予定である。次回の会議は5月。今後は、宿題という形で考えてきて欲しい事を依頼する予定である。

3 閉 会